

# ジブチの森プロジェクト

—過去 71.5 度を記録、世界一暑い国に水と緑を—

## 社会課題

夏は気温50度、冬でも30度 国土の 89%が砂漠 過酷な現実

気候変動の影響を強く受け、世界で最も暑い国と言われるジブチは、国土の 89%が砂漠か乾燥した荒地です。干ばつや熱波の頻発により雨量が減少し、深刻な水不足に直面しています。この影響で、農作物は十分に育たず、家畜も水や飼料不足により成長が阻害され、時には死に至るケースも発生しています。

さらに、近隣諸国からアラブ諸国を目指す難民・避難民がジブチ国内を通過・滞在するため、地域社会全体で食料や生活支援の需要が急増しています。

この危機に対し、学校や地域を巻き込み、気候変動への対策と環境改善が求められています。



荒野を走るジブチ赤新月社の車両©IFRC

## 赤十字の解決

子どもや難民・地域住民とともに、  
地域全体の環境改善と気候変動対応に貢献します

### 学校では・・・赤十字クラブ設立

支援対象の 2 校で赤十字クラブを設立、同クラブによる 100 本の植樹、掃除道具の整備、気候変動意識向上のセッションを通じて、子どもたちが主体的に環境保全に関わる機会を提供します。

### 難民・避難民コミュニティ・地域全体では・・・

クリーンアップキャンペーンや家庭菜園の実施により、住民の環境改善や食料自給の取り組みを支えています。

さらに地域全体では、グリーンベルトの植樹や農業用具・調理用ストーブの整備、太陽光発電による貯水タンクの導入などを行い、生活基盤の強化と環境保全を両立しています。

これらの取り組みは連携して進められ、地域全体の持続可能な気候変動対策につながっています。



ゴミがあふれかえる街中 © 日本赤十字社



事業の内容を住民に説明するジブチ赤新月社職員  
© 日本赤十字社

# 社会的なアウトカム

## サハラ地域の荒れ地 1 億ヘクタールを回復する「グレート・グリーン・ウォール構想」に貢献

合計 15,000 本の苗木の植林は、対象地域の学校やコミュニティで実施され、子どもたちや住民が主体的に環境保全に関わる機会を提供します。

この活動は、ジブチ政府が 2021～2030 年計画で設定した植林目標（各州 10 万本、全 6 州で合計 60 万本）の達成を後押しし、アフリカ連合主導の「グレート・グリーン・ウォール構想」（サハラ地域 11 か国で荒れ地 1 億ヘクタールを回復する国際的取り組み）という環境再生プロジェクトの一翼を担います。

## 100 世帯の家庭菜園と地域活動による生活基盤強化

これまで家庭菜園の経験がなかった難民・避難民コミュニティに対して、栽培技術から収穫・販売手法まで体系的な技術を学ぶ研修を行い、家庭菜園の運営や作物の市内販売を通じて安定した収入を得る機会を提供しています。これにより、食料確保や家計の補助だけでなく、住民自身の生活の自立にもつながります。

また、コミュニティでの清掃活動や環境改善プロジェクトへの参加を通じて、地域全体の生活環境が向上するとともに、住民間のつながりや社会参加意識も高まり、厳しい環境の中で共生する仕組みを築いていきます。



植林活動を担う赤十字クラブの生徒たち

© 日本赤十字社



家庭菜園の実施予定地© 日本赤十字社